

新品種の育成に向けた人工交配 (Vol. 5 令和6年4月)

消費者の皆さまからは「より美味しく」「より食べやすい」くだものが、また、くだものを作る生産者の皆さまからは「病気に強く」「つくりやすい」くだものが求められています。

南信農業試験場ではこれらの期待に応えるべく、新しい品種育成に向けた様々な取り組みを行っています。最近では、例えば「黒星病に強い形質」を持った個体を遺伝子診断により選別する技術を活用した、効率的な品種の育成にも努めています。

とはいえ、交雑育種の基本は「交配」から。品種育成は、異なる品種の花粉を人工的に交配させる作業からスタートします。4月は有望な交配組み合わせを選定し、交配作業を進めています。地道な作業ではありますが、何年か後に有望な品種が生まれることを目指し、品種育成に取り組んでいます。



人工交配の様子



人工交配後の袋かけ
(蜜蜂などによる他の品種の
受粉を避けるため)